

CONTENTS

「三者会議」の実施（試行）について（中間報告）

国内初の灌漑用重力式コンクリートダム
江畑溜池堰堤（文化庁有形登録文化財）

編集後記

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を、山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。



●錦川 河川激甚災害対策特別緊急工事

「三者会議」の実施（試行）について（中間報告）

技術管理課

平成19年度から県土木建築部の各出先事務所で「三者会議」を実施（試行）しています。平成20年度は50箇所を予定しています。

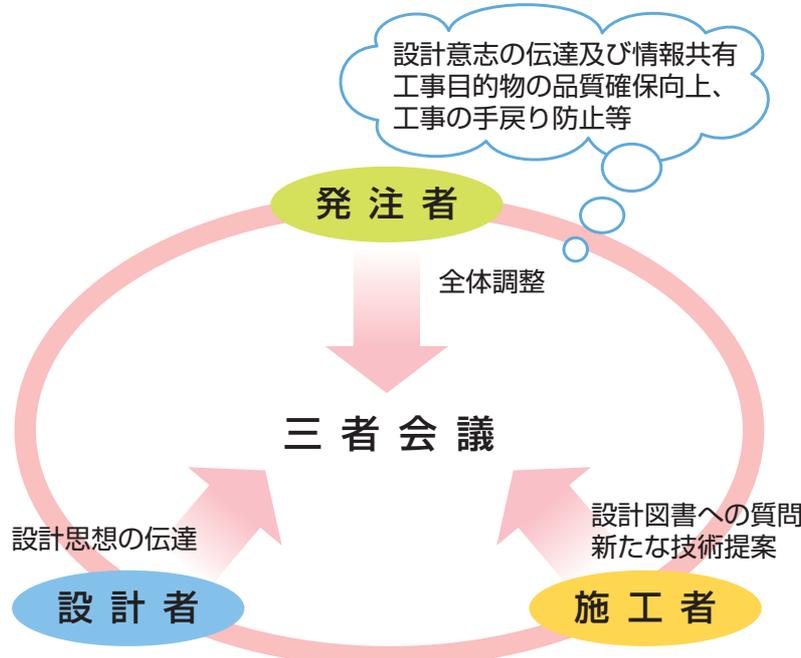
この会議には、建設技術センターが会議に臨席し、「三者会議」の進め方や状況の確認を行い、施工者・設計者・発注者それぞれの意見を聞きとり、今後の改善策を提案するとともに、会議の中で議論された内容を蓄積し、設計段階にフィードバックさせる項目の洗い出しを行うこととしています。

これまでの「三者会議」の状況や意見・感想などをまとめましたので、参考にしてください。

1. 三者会議とは？

工事発注後、施工計画検討の初期段階で、設計業務受託者（設計者）、工事請負者（施工者）及び発注者の三者が打合せを行い、より適切な施工計画の策定を目指すものです。

設計思想の確実な伝達、設計・施工条件や施工上の留意点等について検討・協議することで、監督業務の適正な履行並びに確実な施工が図られ、発注者が求める品質や機能を確保することを目的としています。



「三者会議」は大循環（設計・調査・設計、施工、維持管理の各段階を通じて情報を提供できる仕組み）の改善方策として提言されています。

〈得られる効果〉

- 計画・設計及び施工分野の技術的知識を相互に交換
⇒それぞれの技術力向上
- 施工者：施工現場の効率化
- 設計者：成果品の品質向上

三者の技術力と意欲が確保されていなければ期待する効果は得られません！

2. 三者会議で発注者は何をしますの？

会議の開催にあたり、発注者の果たす役割の主なものに次の4点が挙げられます。

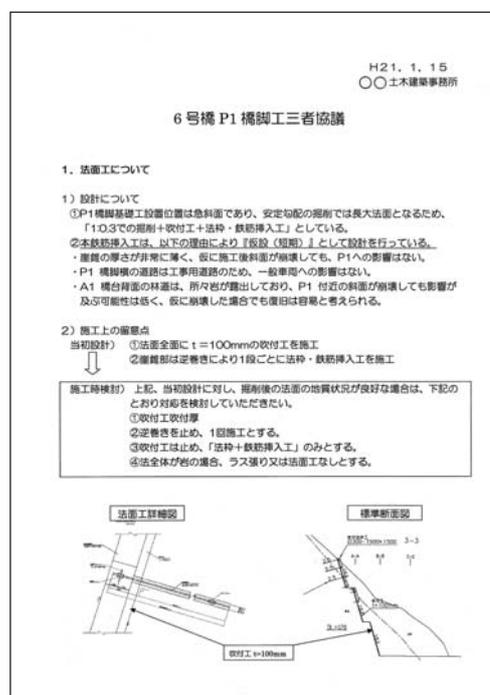
- ①当該工事の設計図書（特記仕様書）で三者会議の開催について明示
- ②設計者に対し、工事発注時期及び設計成果の関与箇所等の情報を提供
- ③日程の調整、施工者の報告内容を受け、必要な内容を事前に設計者に伝達
- ④会議における司会進行・意見の調整等

3. 設計者の費用はどうしているの？

平成20年度試行では、設計者の打合せ費用（実費のみ）を工事費の共通仮設費（技術管理費）積上分で計上しています。設計者への支払は施工者から行います。

4. 三者会議で発注者はどんなことに気をつけたいの？

- ①会議の主旨の周知、事前に質問回答を準備することで会議の進行が円滑となります。単なる施工調整会議とならないよう、施工者からの事前質問が会議にふさわしい質問であるかどうかチェックすると良い。
- ②会議を進める時に、ホワイトボード等を利用して図面を貼ったり、議事メモを書いたりするなどして、情報を「共有する」と良い。現地写真の用意などは会議に極めて有効。
- ③会議の進行は発注者。進行の是非が会議内容の是非を左右することを認識する。そのためには、発注思想を整理・確認のうえ、現場状況の十分な把握、参加者に積極的発言や自由な意見交換を促したり、議論するテーマが発散したりしないよう「話を戻す」ことが大切。
- ④設計者に対しては、施工者の質問に対する回答だけでなく、設計時の思想を述べてもらうことが大事。
- ⑤幅広い視点での議論や迅速な意志決定のため、発注者側は監督職員等複数体制で会議に臨むこと。



議論の目的を明確にするために
発注者において資料を作成した例



ホワイトボードで参加者の認識を共有



大規模工事の三者会議状況

5. 三者会議ではどんな意見が出ているの？

三者会議における技術的論点について（例）

種別	工種	各工種に関する話題
道路①	排水工	既設排水管の切替え・集約化・取付け方法の考え方の確認
道路②	アンカー工、鉄筋挿入工	確認試験の位置と箇所数について 定着部の岩盤とグラウトの付着確認方法と目標数値の考え方について 受圧版のタイプと考え方について
ダム	電気設備（更新）工	現設備状態の把握程度と更新に伴い設計した設備ごとの機能・性能の考え方
水門	地盤改良工	汚泥処理の考え方 強度の確認方法
	仮設工	矢板高止まり時の対応について 振動対策の考え方
橋梁①	橋梁補修工	断面修復の手順について はつり時の鉄筋状態の確認と腐食時の対応方法について
橋梁②	下部工	切梁と鉄筋や杭位置の関係 コンクリートひび割れ抑制対策
	仮設工	省力化や現地あわせを考慮した場合の考え方 現道交通規制ができない中での土留めの考え方
橋梁③	下部工（耐震補強）	増し杭の施工位置（座標表示）の確定方法について 埋め戻し材料の設計上の考え方 コンクリート部材厚が小さい箇所のひび割れ抑制対策について

6. 三者会議に参加した人の感想はどんなの？

これまでの会議での感想（例）

発注者	<ul style="list-style-type: none"> 設計と現場の情報伝達が速やかとなるとともに設計思想が共有できる。 工種（電気等の専門外工事）や小規模工事、発注形態（工区の輻輳など）によっては議論する項目抽出が困難となる場合がある。
設計者	<ul style="list-style-type: none"> 現場の詳細がわかり、今後の設計に生かせる。 問題が発生してからでなく、事前に設計思想を生言葉で伝達できる。 成果が古い場合、当時の内容の掘り起こしに手間がかかる。
施工者	<ul style="list-style-type: none"> 設計者の思想が直接聞け、施工時の留意点が把握でき、対応が円滑となる。 品質確保において優先すべき点が理解できた。 複数回の開催が工種によっては必要だと思う。

7. これからどうするの？

平成20年度の「三者会議」の内容を整理・分析・評価し、計画・調査・設計、施工段階にフィードバックさせる項目の洗い出しを行い、「三者会議」の今後のあり方について提案し今後に生かしたいと考えています。

また、会議の参加者にアンケートを実施し、会議の有効性の検証を行う予定です。

国内初の灌漑用重力式コンクリートダム

江畑溜池堰堤(文化庁有形登録文化財)—— 山口市阿知須

この度は、山口市阿知須にある江畑溜池堰堤(えはたためいけえんてい)を平成20年8月1日に訪問し、山口市阿知須土地改良区のT理事長さんとNさんに案内をしていただいた。

当日は、猛暑ではあったが、堰堤から上流部の湖水面を眺めると湖水周辺は緑の木々に囲まれ、セミの鳴き声にはむしる涼感をおぼえた。

この地域は、昔から新田開発に要する農業用水が不足するため、元禄年間(1688~1703)には万年溜池が築造され、さらに江畑溜池も明治22年

(1889年)12月に築造されている。

現在の江畑溜池堰堤(文化庁有形登録文化財)は、先に記した江畑溜池が明治23年(1890年)の豪雨により堤防が決壊して、下流に大きな被害が生じたがその後、溜池の再建については長年にわたる多大な努力によりようやく実現したものである。

溜池の再建は用排水改良国庫補助事業として昭和3年(1928)9月に着工し、昭和5年(1930)12月に完工した。

この堰堤は、粗石コンクリート重力式灌漑用ダムで、堤高14.4m・堤長68.84m・堤体積17,100m³・天端幅2.5m・貯水量450,000m³。堤体の法面勾配は上流側1分・下流側8分であり、堤体の法表面は上下流側とも花崗岩の張石布積みとなっている。

この堰堤は、国内の灌漑用コンクリート重力式ダムとしては最も古く、現在も農業専用のダムとして貯水・給水機能を果たしており、農業土木技術的な側面からも貴重なものであり、平成13年(2001)5月、「文化庁有形登録文化財(建造物)」に登録された。

完成当時の堤体写真と現在の堤体の状態を比較・観察すると、ほとんど損傷はなく建設当時のままの姿であり、美観的にも品質的にも非常に優れている。(取水施設のみは、改



堤体部上流の取水塔



現在の江畑溜池堰堤



完成時の江畑溜池堰堤



堰堤より湖水面を望む



堰堤上流部の治山工事(完成時)

良されている。)

さらに完成時の写真には、堤体上流部の真砂土の貯水池への流入防止のための治山工事が施されているのが確認できるが、現在では、写真(湖水面を望む)のように溜池周辺は緑に覆われている。

また、左岸袖部からの湧水が全く見られず、右岸袖部からは若干の湧水が見られるが湧水量の変動はほとんど無く、技術的にも非常に優れている構造物であると言える。

灌漑利用規模は、万年溜池と江畑溜池堰堤の二つの溜池により、灌漑受益面積130町歩・受益者は約400人程度が恩恵を受けている。

阿知須土地改良区の方が、「私達は、先人の多大な努力に感謝し、先人によって建設されたこの堰堤(江畑溜池堰堤)を丁寧に管理し、後世に伝えたいと思う。併せて先人の苦勞・偉大さを若い人に伝え、見てもらいたい」と熱く語られていたことに深い感銘をうけた。このように言われることこそが、「土木技術者の本懐」ではないだろうか。

多くの方々が、この江畑溜池堰堤(文化財)を見学されることをお勧めします。

堰体の右岸脇には、江畑溜池堰堤の説明看板や溜池竣工記念の石碑がありますが、詳細は山口市阿知須土地改良区(TEL:0836-65-4380)にお問い合わせ下さい。

編集後記

今年度、『ひび割れ抑制対策の現場研修』を行いました。職場内研修で使いたかったので、その研修資料を貸し出して欲しいといったご要望がありました。若手職員からベテランの職員までが分け隔て無く土木技術を共用することはとても大切なことだと考えております。研修等の技術資料の貸し出しなど、ご要望がありましたら、是非ご連絡をいただければと思います。

【Eメールアドレス】 info@yama-ctc.or.jp
【ホームページアドレス】 http://www.yama-ctc.or.jp
〒753-0073 山口市春日町8-3春日山庁舎
(財)山口県建設技術センター 情報誌編集委員会 宛
【TEL】083-920-1233 【FAX】083-920-1288

としあな

としあな